



訪問診療・往診専門

医療  
法人

かさまつ在宅クリニック



かさまつ

通信

No.8

(平成 28 年 6 月)

在宅での点滴治療について

今回は、在宅での点滴治療についてお話しします。

家（在宅）でも点滴をうけられますか？とよく質問をうけますが、家でも可能です。点滴を行う方法は、二つあります。

①自然にポタポタ落とす方法、②輸液ポンプを使いながら精密に落とす方法です。①の自然に落とす方法は、みなさんも容易に想像できるかもしれませんが、②の「輸液ポンプ」に違和感を覚えられた方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

病院で使っているような大きな重い機器を家でも使うのかなあ？ご安心ください。家で使用する「輸液ポンプ」はコンパクトなものを使用します（写真）。携帯電話と比較していただくとおわかりいただけると思いますが、決して大きなものでなく、片手で持ち運ぶことができるもので、重くありません。非常に便利で、家での精密な点滴治療を可能にしてくれています。

万が一、点滴中に不具合が生じてもアラームが鳴り、音声で知らせてくれます。ご家族で対処できるものか、医療者に連絡しなければいけないものかを機械が音声案内してくれます。対応がわからなければ、電話で担当者が相談に応じてくれる体制が整っています。充電式の電池を使用しているため、停電時もしばらくの間は動作が停止することはありません。



【携帯電話】

【輸液ポンプ】

「輸液ポンプ」を必要とする方は、主に、カロリーの高い点滴栄養をしている方や投与量を一定にしなければいけない薬を使っている方などが対象になります。家での点滴治療が可能か否かは、主治医の先生や当クリニックにご相談いただければと思います。

（院長 笠松 哲司）

みなさん、はじめまして。

かさまつ在宅クリニックで訪問看護をさせていただくことになりました、廣田久美子です。



私が訪問看護をしたいと思うようになったきっかけは、祖父の在宅療養でした。

祖父は、昨年の秋から訪問診療や訪問看護、訪問リハビリ、訪問入浴などのサービスと、祖母と母の介護を受けながら生活しています。私は最初、在宅は無理ではないかと思っていました。でも帰ってみると入院していた時よりもいきいきと生活できていて、本人・家族の思いと支えがあれば在宅療養はできるんだと感じました。今は家に帰って本当によかったと思っています。

私は訪問看護の経験がなく、まだまだ未熟ですが、家にいたいと思う患者さんと家にいてほしいと思う家族の方々の支えになれるような看護師を目指して一生懸命頑張りますので、よろしく願いいたします。



訪問診療・往診専門

医療  
法人

かさまつ在宅クリニック



かさまつ  
通信

No.8

(平成 28 年 6 月)



↑【十八年間連れ添った聴診器を新調しました！】

この通信を読まれる方のほとんどが院長の患者様だと思います。毎回、小児科医として何を書こうかと足りない頭を捻り続けていますが、裏側もきちんとお目通し下さっている方がいらつしやると院長から伺っています。さて今回は何を？と悩んで、はや一週間たちました…。そう言えば、「今年も奥さん、とくしまマラソン完走されていましたね」とお声かけ下さった方もいらつしやったとか。マラソン翌日の徳島新聞に掲載される、完走者名簿一覧から私の小さな名前をわざわざ見つけて下さった方がいらつしやったようです。ありがとうございます。直接お会いすることはありませんが、こうやってお気にかけて下さっていらつしやる方がいることは嬉しいですし、また日々のいろいろなことを頑張っていこうと思えます！

今年度に入り、小児科の在宅患者さんも新規の方や訪問終了になった方など異動が多く、四〜五月は今まででいちばんバタバタしていました。開院直後、生後二カ月の頃から訪問させていただいていた赤ちゃんは三歳半になり、また次のステップに進むために定期訪問は終了させていただきました。おそらく人生の中でいちばん大きく成長する三年間を、ご家族と一緒に寄り添って拝見させていただいたのは、私にとっても有意義な時間になりました。また、小児科医は成人期に移行した患者さんも継続して診療しますが、表の院長の欄にあるように、在宅用のポンプを使用して中心静脈栄養の点滴を開始した患者さんもいます。病院で使用するポンプとは異なるので、ご自宅ではあれやこれやと試行錯誤していますが、なんとか無事に軌道に乗ってきました。

今月から徳島大学の医学部の学生さんが研修にきています。小児在宅医療の研修ができるのは当院の特徴のひとつだとも思います。大病院の病棟や外来ではみられない、在宅での療養に医師としてどう向き合っていくか？私が学生の時分には、小児科医が訪問診療をするという概念は存在しませんでした。まだ医師ではない学生の感性で、在宅医療に触れてもらえれば、より患者さんの思いに寄り添える医師になってくれるのではと期待しています。

(小児科 笠松 由華)



毎年、撮影しておりますスタッフ集合写真。  
向かって前列右端は、パートで週1回お手伝い  
いただいている北村医師。  
後列左から2人目は、4月から訪問看護部に入  
っていただいた廣田看護師です。  
今後ともスタッフ一同宜しくお願い致します。

